

テーマ：防災意識の高揚 対象：地域住民 主催：尾道市立河内公民館

# F-(6)地域のみんなの防災活動～気にかける 助け合い活動～

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

## 1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
令和2年 10月30日 (金) 19:00～21:00 11月6日(金) 19:30～21:00	河内公民館 会議室3	<p style="background-color: yellow;">○ハザードマップ作成</p> <p>市が作成したハザードマップを参考に、要支援者の世帯を重ね合わせ、警戒地区内に居住する要支援者を誰でも認識できるような地区ごとのハザードマップを作成。</p>
令和3年 1月17日(日) 8:30～11:30 11月21日(日) 8:30～11:30 令和4年 11月20日(日) 8:30～11:30	河内公民館 大ホール 事務室 調理室 和室	<p style="background-color: yellow;">○地域との防災訓練</p> <p>①情報伝達(親しみやすい言葉かけ)や②避難所運営(仮設トイレの組立や避難所内の誘導)③非常食を使った炊き出しに分かれて訓練を実施の後に豪雨災害のときの様子などが収められたDVDの視聴と講話を聴講し、防災グッズを展示見学。</p>
令和4年 7月23日(土) 13:00～18:00	御調西小学校 体育館 グラウンド ピロティ	<p style="background-color: yellow;">○御調西小学校との防災学習</p> <p>御調西小学校と連携し、「サマーキャンプ」を実施。3つの班(段ボールベッドづくり、新聞紙でのスリッパと器づくり、仮設トイレの組立て)で避難所グッズ作りを体験後、保護者指導のもと、児童全員でポリ袋調理体験を実施。</p>



<b>対象</b>	地域住民(小学校4, 5, 6年生とその保護者, 大人)
<b>経費</b>	新聞紙スリッパづくりの講師, 防災品の提供: 無償 食材費と保険料: 400円/人
<b>連携先</b>	尾道市防災士ネットワーク, 尾道市総務課生活安全係, 河内地区自主防災会

<b>問合せ先</b>	河内公民館 〒722-0343 尾道市御調町丸河南 90-1 電話: 0848-76-1981
-------------	---

## 2 講座設定の理由（学習の目的）

平成30年7月の西日本豪雨災害を受け、令和元年度から社会福祉協議会の事業で3つの目的（1. 要支援者を支援する。2. 早めに避難する。3. 呼び掛け合って避難する。）を掲げ、自主防災会と連携し、「小地区ネットワーク推進事業の見守り活動」を立ち上げた。

## 3 学習目標

- ハザードマップの作成や防災訓練等の活動を通して、地域住民の防災意識を向上させる。
- 防災訓練や防災学習を通して、防災に対する知識・技能を習得する。
- 全体の活動を通して、多世代で関わることにより地域のつながりづくりを醸成する。

## 4 事前に必要な知識や準備物

- 御調西小学校、青少年健全育成会、自主防災会への事業説明と協力依頼
- 尾道市総務課生活安全係へ、避難品の提供と、講師の紹介を依頼
- 尾道市教育委員会へ、学校の体育館、グラウンドなどの施設使用届
- ポリ袋調理や器づくりの事前学習（保護者、役員）

## 5 留意点

- 社会福祉協議会の事業と連携した、小地域ネットワークづくりの取組の一環として住民のニーズを把握するため、「見守り活動の実施」についてのアンケートを実施する。
- 「避難の呼びかけ支援体制づくり」（県の助成事業）等の活動への参加を通して、要支援者への避難に対して意識づけをする。
- 防災訓練事業に参加した地域住民が小学校での防災学習の際に、講師として学んだことを発揮する場を提供する。

## 6 成果

- 「あんしんカード」の提出については、最初、個人情報の提供に抵抗感を持たれる方が居られたが、3年を経過した今では、高齢者に限らず、独居の方の提出が増えている。
- 今まで以上に地域住民同士が相手を思いやる言葉が度々聞かれるようになり、地域のつながりづくりにつなげることができた。
- 台風の際、事前に避難された方もおられ、地域住民の防災意識も向上してきている。
- 事業参加者を講師として、学びを活用する場面を設定することで、地域住民が自分事としてより一層認識することができた。

## 7 課題（事業に関する）

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、防災学習で学んだ児童が講師として地域住民へ学んだことを発揮する場を持つことができなかった。
- 今後も多くの方と様々な世代の方に参加して頂けるような内容にする必要がある。
- 防災を身近な事ととらえられるように意識づけの工夫が必要である。

## 8 今後に向けて（事業に関する）

- 防災学習を通して、児童が学んだことを発揮する場を仕組む。
- 体験型の学習を増やし、次年度以降、取り組む。
- 避難時の要支援者に対する支援方法を検討する。